

～開業奮闘記～

誰が興味あるねん

八 治 屯

第42話 「ポリとハンチングと私」

最近、若い女の子でたまにハンチング帽をかぶっている人を見かけますが、なかなかキュートで良いですね。ただ、僕はハンチング帽を見ると**いつもM君の事を思い出すのです・・・**。

僕は色々あって、とある幼稚園に1～3月の2ヶ月半だけ通った経験があります。慣れない幼稚園生活は結構しんどかったのですが、そこでままごとをしていた時の事。

お母さん役の女の子から朝ごはんをもらうというシーンの時、僕は恥ずかしさからその朝ごはん（に模したもの）を女の子の手から叩いて地面に落としてしまったのです。

それを見ていたお父さん役のM君が、**「お前はお母さんにそんな態度取るのか！！」**と、みんなの前で僕をボコボコに殴ったのです。

生まれて初めて人に殴られた僕は、あまりのショックで号泣してしまいました。

その後M君とは小学校は別々になったのですが、同じ中学校に通うことになり、久々の再会をする事に。

M君はちゃんと“札付きのワル”に成長しており、**「うわ・・・Mや・・・」**と僕は震え上がったのですが、M君とは結構気が合ってよく遊ぶ仲になりました。

中二の夏休みに僕はギターを録音したくなり、歌が上手かったM君をボーカル担当として家に呼び出したんです。

で、M君が来たのですが、その時の格好が**「甚兵衛と雪駄にハンチング帽」**という、中学生らしからぬ格好だったんです。

しかも片手に**「日本酒の一升瓶を持って・・・！！」**

当然僕は酒なんて飲めませんでした。M君は**「人生、これが無いとやっとなんか」**と、日本酒をグビグビ飲み始めたので、その時は本当に面食らいました。

彼は学校のカバンに般若のペイントをしていたのですが（当然校則違反）、理由を聞くと「中学卒業したら同じ柄を背中一面に入れる」と言っていました。同級生の中では「M君は絶対に893になる」というのは共通認識でした。

高校は別になり疎遠になったのですが、次に彼に会ったのは19歳の夏。

バンドの打ち上げ終わりで上機嫌に神戸の三宮の街を歩いていた時、三宮の生田神社近くの交番で彼の姿を見かけたんです。

ただし、**「犯罪者ではなく警察官として・・・」**

思わず僕は交番に入り、**「お前Mやんなあ?? お前なんでポリになっとるねん!! お前は893にならんとあかんやろ!! 何しとるねん、しっかりせい!!」**と大声で詰め寄ってしまったところ、僕はM君の同僚の警察官に取り押さえられてしまいました（当時僕は病的に痩せていた上に腰までのドレッドヘアだったので、完全に「ヤバいやつが入ってきた」と思われたのでしょう）。

M君は私に気付き、事情を話してくれて大事にはならなかったのですが、M君から**「いま公務中やから勘弁してくれ・・・」**と泣きそうな声で言われました。

思い出はいつの日もビターです。

それからM君には会ってないですが、恐らくマル暴（暴力団対策課）所属になっている事でしょう。

M君の腕っ節と893好きを考えると、彼以上の適任はいないと僕は思うのです。

